

にこり

ながさき

ようこそ、笑顔咲く長崎県へ

Nagasaki Discovery Magazine ni-ko-ri

 長崎県

島原半島
地球の歴史を
学ぶ旅

創刊号

No.

01



神代小路

Koujiro-Kuji

江戸時代への時空旅行

島

原鉄道神代駅から歩いて五分、通りに入ると風景は一変した。格式のある門構えの武家屋敷、明治時代に建てられた和風建築、苔生した石垣や、緑に彩られた生垣、趣のある小さな水路……。そこだけ時代を切り取ったような風情ある町並みが続いていた。

十七世紀後期、神代鍋島家四代当主鍋島高就が、それまで散在していた家臣たちを住ませるために、神代城趾の西側を流れる「みのつる川」の流路を変えて外堀をつくり、その内側の深田を埋め立てて整備した集落。その竹まいは三百年以上の時を超えて現代へと受け継がれている。兵糧を確保するために実のなる木を植えた家々の庭。矢としての役目も果たしたであろう竹の生垣。常に戦と向かい合っていた武士たちの暮らしよりも垣間見える。

足元に広がるアスファルト道路と、時折通る自動車の音が、ふと現実へと引き戻すことはあっても、視線をやや上に向けてゆっくりと歩けば、江戸時代への時空旅行はスタートする。歳月に磨かれた町並みを地域の誇りとして守り育てている人々——その豊かな心がじんわりと伝わってくる神代小路。変わらないふるさとの風景が広がっている。

※佐賀鍋島家三十六万石の分家。三千石。

ふるさと再発見
地球の鼓動を体感する

世界ジオパーク



Unzen Volcanic Area Geopark

一〇〇九年八月、世界的に貴重な地形や地層などを認定する「世界ジオパーク」に日本で初めて島原半島が認定された。世界遺産の地質版ともいわれるジオパークだが、認定されるためには次の四つの項目について認めてもらう必要がある。

- 一、学術的に貴重な地形、地質遺産や美しい自然環境が複数あること。
- 二、それらが保護されていること。
- 三、それらをうまく利用した人々の暮らしや歴史があること。
- 四、それらの地質遺産を、教育や観光に持続的に活用していること。

世界遺産と大きく違うのは三と四の二項目である。ジオパークに認定されるためには地形や地層だけでなく、その恵みを受けて生活する人々の営みや地域の歴史が大切な要素になるという。現在、島原半島では「雲仙岳災害記念館」を拠点に、ジオパークを知ってもらうための様々な取り組みが行われている。ジオパークの魅力とは一体なんだろう。世界が認めた島原半島の知られざる姿に迫る。

※1 世界ジオパーク認定機関は、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワーク



Unzen Volcanic Area Geopark



「島原半島は視点を変えればとても面白い発見がたくさんあります」と語る島原半島ジオパーク事務局の寺井邦久さん。千々石展望台から見た千々石断層。不自然に凹んだ田代原から海岸に向かってカーブを描くように、急な崖ができています。明瞭な断層地形を観察できるジオサイトだ。



国崎半島の近くにある筒子岩。約150万年前の火山の土石流堆積物が波の浸食によって削られてできたもの。まるで人の顔のようだ。早崎半島の海岸。赤い石の部分は噴火口から空中を飛んできた石がたまってできた層。上の黒い岩は、その後流れ出した溶岩流。ここから島原半島は大きく成長した。

島原半島は、地球の歴史を学ぶ野外博物館

島原半島が世界的な注目を浴びている大きな理由の一つに、火山の成長を観察できるという点がある。一九九〇年に起きた雲仙普賢岳噴火災害は、私たちに強烈な記憶を焼きつけたが、島原半島でははるか昔から幾度となく火山活動が繰り返されてきた。この火山活動の跡を観察することができるのがジオサイトである。今回は島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局の寺井邦久さんに主なジオサイトを案内していただいた。

まず訪れたのは千々石断層である。島原半島は現在、全体的にゆっくりと南北に広がるように動いているという。その地面の動きが作り出した大地の巨大な裂け目が千々石断層である。この断層は約三十万年前に活動を始めたと考えられており、断層の長さは約十四キロメートル。最大落差は四百五十メートル以上に達し、今でも年間一・五ミリメートルずつ沈降

三十七八年に起きた島原の乱の最後の激戦地であるが、ここは地質学的にも重要なジオサイトであるという。原城は三方を海に囲まれた標高約三十メートルの高台に建つ天然の要塞だった。城を築くのに適したこの高台は、なんと約九万年前の阿蘇火山の巨大噴火に伴う火砕流によって形成されたものだという。有明海を渡って島原半島まで達する火砕流——想像を絶する自然の猛威である。また、柔らかなくて掘りやすかったのか、天草四郎たちはこの火砕流の地層部分に洞穴を掘ったという。阿蘇の大噴火がなければ歴史は変わっていたかもしれない。

このほか、約百五十万年前に噴出した厚い溶岩流や土石流の地層が見られる国崎半島をはじめ、半島内には二十三ヵ所のジオサイトがあり、それぞれに地球の歴史を学ぶことができる。共通しているのは、学術的にとても貴重な地形や地層が、ふだん目にする風景の中に溶け込んでいるということ。島原半島ジオパークは野外博物館そのものである。

しているという。膨大な時の流れが生まれ出した美しい景観は、島原半島が動いていることを肌で感じさせてくれる。

「ここが島原半島が始まった場所です」と寺井さんが案内してくれたのは、半島南端の早崎半島である。島原半島は今からおよそ四百三十万年前の海底火山の噴火から始まったという。「島原半島の歴史は人類の歴史と同じくらい長いんですよ」と寺井さん。ここでは半島で最も古い岩石を見ることが出来る。

次に、「雲仙火山のはじまりが見られる貴重な場所です」と案内されたのが龍石海岸である。本来なら地中深くあるべき七十万年前の地層が露出しているばかりか、五十万年前に雲仙火山が初めて噴出した火山灰の層も観察でき、幾重にも重なった様子は、まるで芸術作品のようである。

次に訪れたのは原城跡。原城は、一六



約400年前、備岸のために植えられたという早崎半島のあこ樹。島原半島でもあこ樹が残っているのはこの辺りだけで、周辺のあこ樹群は天然記念物に指定されている。約9万年前の阿蘇の大噴火で発生した火砕流の層を見ることが出来る原城跡。白っぽい地層は軽石を含んでいるため、昔は地元の人が掘り出して磨き粉として使用していたという。龍石海岸には50万年にわたる雲仙火山の記憶が刻まれている。はるかかな時の流れと、その巨大さに圧倒される。



■活発な噴気活動が見られる雲仙地獄。いたるところでゴッゴッと、泥を噴き上げる音が聞こえる。 ■旧八万地獄。枯れた地獄に小さな花が咲いていた。地獄が森になろうとする姿は、地球の生命力を見るようだ。 ■新しくオープンした「ほっとふっと105」は、連日多くの人で賑わう。腰掛け足湯、ウォーキング足湯、ペット足湯…とバリエーションも豊富。

Unzen Volcanic Area Geopark

いと、不思議なことに気付いた。小浜歴史資料館の敷地内には約百度の源泉がある。そこから二百メートルほど歩いた場所には低温の炭酸泉が、さらに二百メートルほど歩いた場所には水が湧き出しているのだ。とても狭い範囲で温度や泉質がこれほどまでに変化するの、断層



蒸釜とカゴは貸し出し無料。

によって地下構造が変わったためと考えられている。これも島原半島が動いている証拠といえそうだ。小浜では近年、温泉熱で稼働するバイオディーゼル燃料の精錬プラントも開発され、地域ぐるみで温泉熱を利用したエコ活動が行われている。小浜温泉にはこの春、新しい観光スポットがオープンした。源泉温度二〇五度にちなんでつくられた、長さ一〇五メートルという日本一長い足湯「ほっとふっと一〇五」である。ここには無料の蒸釜が設置されており、多くの人が持参した新鮮な野菜や卵を蒸し、海辺で楽しいひとときを過ごしていた。

火山活動の恵みは温泉だけではなく、現在見られる島原市内の湧水の多くは、一七九二年の雲仙岳噴火に伴う群発地震による地殻変動によって誘発されたものだといわれている。島原市内では、毎日二十万トンものきれいな水が湧き出ている。街のいたるところに水飲み場があり、かつて生活用水として使用されていた用水路には千匹余りの鯉が放流されている。美しい水の都は、火山が生み出した大いなる恵みだったのである。

島

原半島で繰り返し返されてきた火山活動は恐ろしい災害を引き起こす一方で、人々に様々な恵みをもたらしてきた。その一つが温泉である。島原半島は硫酸塩泉の雲仙温泉、塩化物泉の小浜温泉、炭酸水素塩泉の島原温泉と、泉質の異なる三つの温泉が湧出する大変珍しい土地だという。

数多くの旅館が立ち並び、九州でも有数の温泉地として知られる雲仙。中でも観光客が必ず足を運ぶのが雲仙地獄である。この凄まじい蒸気を噴き上げる地熱地帯が、実は移動しているということをご存知だろうか。現在、最も活発な噴気活動が見られるのは、雲仙地獄の東端にある大叫喚地獄付近。この大叫喚地獄から西に移動するにつれて噴気活動は衰退し、雲仙地獄の西端の原生沼付近では、まったく噴気活動が見られない湿原となっている。地獄は枯れると、長い時間をかけて森になるといふ。ここ数十年で枯れたという旧八万地獄を訪れると、岩肌になさな花が咲いていた。そこには、森になろうと必死に生きている地獄の姿があった。小浜温泉へ移動し、路地裏を散策して



火山活動が
もたらした
温泉、湧水



Unzen Volcanic Area Geopark



笑顔が素敵なお中島ふみえさんは、この店の看板おばあちゃん。「この店は築100年の味噌蔵を改装したものなんです」という店内はカフェ風で落ち着いた雰囲気。テーブルやカウンターには季節の花が飾られ、もてなしの菓子だった寒ざらし同様、中島さんの心配りにあふれている。ゆっくりとくつろぎながら、冷たい寒ざらしをツルンといただく。



店頭では店主の加藤一隆さんが一枚丁寧に湯せんべいを焼いている。その流れるような職人技は目とれるばかりだ。1日約300枚限定の手焼き湯せんべいは焼きたてが最高。隠れた人気の湯せんべいの「みみ」もぜひ試してほしい。こちらでは予約をすれば、手焼き体験を楽しむこともできる。



海が見える畑でブロッコリーの収穫作業をしていた岩永篤さん。こだわりは土づくりと品種選び。農業は使わず、堆肥や有機質肥料を使った土づくりに力を入れる。品種は、毎年約20種類の試作をしながら、この土地にあったものを選んでいくという。「今年は気温・雨量共によく、最高の出来ですね」と笑顔で話してくれた。

大地が育む 島原の逸品

島 原半島では、実に多くの農産物が生産されている。火山麓扇状地と呼ばれる雲仙岳の裾野に広がる緩やかな傾斜の地形は、この地で繰り返されてきた火山活動に伴う土石流や火砕流が堆積してできたものである。一般的に土壌に含まれたミネラルは時間と共に溶け出し、島原半島の土壌には常に豊富なミネラルが含まれている。つまり、火山灰土が美味しい野菜づくりを約束してくれるのである。

雲仙市吾妻町で三十年に渡りブロッコリーを生産している岩永篤さんを訪ねた。このあたりは、県内有数のブロッコリー生産地だという。朝六時から収穫をしていた岩永さんは「温度が上がらないうちに収穫することが大事なんです。今年は気温や雨量に恵まれ、美味しいブロッコリーができました。サッと塩ゆでにして素材そのものの味を楽しんでほしいですね」。岩永さんは他の生産者と共にエコファーマーの認定を受け、環境にやさしい農業を実践している。

大地の恵みを活かした加工品も作られている。雲仙温泉や小浜温泉を代表するお土産といえば湯せんべい。生地に冷ました温泉水を混ぜているのが特徴だ。その歴史は古く、温泉が体によいことから旧島

原藩主松平公が作らせたという説がある。雲仙温泉の中でも唯一、手焼きを守り続けている店として知られている「遠江屋本舗」を訪れた。店の中は香ばしい香りといっぱいである。店主の加藤一隆さんによれば、湯せんべいの命ともいえるパリの歯ざわりとほどよい塩味は、温泉水の量で決まるといふ。季節やその日の天候によつて分量や火加減を変える。「湯せんべいは温泉あってのお菓子です。まさにジオパークの恵みですね」と加藤さん。小浜と雲仙で十軒ほどある湯せんべい屋。それぞれの味を食べ比べるのも楽しい。

湧水を使った名物といえは「寒ざらし」。島原の湧水で冷やした白玉に、砂糖やハチミツなどで作ったシロップをかけている素材なおやつである。島原城のそばに佇む「なか屋」でいただいた。今年八十四歳を迎える店主の中島ふみえさんは「私たちが小さい頃、寒ざらしは、お盆の暑い日に家にお参りに来てくださったお客様へ出すおもてなしのお菓子でした。島原の人はみんな母親と一緒に白玉を丸めた思い出を持っているのではないのでしょうか。島原はいたる所に湧き水があるので、こんなに美味しいものができたのでしょう」と語ってくれた。寒ざらしは、原料となる餅米を大寒の日に水にさらすことからこの名が付いたという。当時、最高のもてなしだった甘くて冷たいおやつは、時を経て名物へと生まれ変わった。

※2 エコファーマー
国の法律に基づき、環境にやさしい農業に取り組むことを早知事から認定され、実践する農業者のこと。

島原半島の未来を輝かせる 新たな取り組み

Unzen Volcanic Area Geopark



島原半島が大好きだという語り部ボランティアの長谷川重雄さん。

ジ オパークの情報発信拠点となっている「雲仙岳災害記念館」は、日本で唯一の火山体験ミュージアムである。一九九〇年に始まった雲仙普賢岳の噴火。この災害で四十四名の尊い命が奪われ、住民たちは約二千日もの長い間、不安な日々を過ごした。この災害の脅威と教訓を伝える施設として二〇〇二年七月にオープンしたのが「雲仙岳災害記念館」である。記念館のオープンをきっかけに、島原半島を元気にしようと生まれたのが、市民が主体となって活動する記念館ボランティアだ。外国人に施設を紹介する外国語ボランティアや、子ども向けのパンフレット製作などを進める教育ボランティアなど五つのボランティアからなるが、今回はその一つ、語り部ボランティアの長谷川重雄さんに話を伺った。

普賢岳の噴火で三人の後輩を亡くした長谷川さんは、彼らの死を無駄にしたくないという想いから語り部ボランティアへの参加を決めたという。現在、長谷川さんは島原半島を訪れる修学旅行生に講話を行うなど、子どもたちに災害に対する心構えや教訓、人と人が助け合うことの大切さを伝えている。「災害時には、本当にたくさんの方から支えていただきました。多くの方の慈しみの心に支えられて島原は復興を遂げました。災害は忘れた頃にやってくると思います。災害の記憶を風化させないためにも語り継いでいかなければならないと思っています」。大切な人を亡くし、自身も四年三カ月の間、避難生活を余儀なくされた長谷川さんだが、島原半島を離れようと思っただことは一度もないという。「島原半島には四季折々の美しい景色や美味しい食べ物があり、人もやさしい。とても暮らしやすい土地です。普賢岳も噴火前に何度も登っていましたし、今でも普賢さんには親しみを感じています」。



■雲仙岳災害記念館では火山や防災について11のゾーンに分けて展示を行っている。
■平成噴火で焼き尽くされた風景を再現したコーナーには、亡くなった報道関係者のカメラなど遺品も並んでいる。容赦のない自然の猛威を肌で感じる空間だ。

島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局
住所：島原市平成町1-1（雲仙岳災害記念館内）
電話：0957-65-5540
島原半島ジオパーク 検索



雲仙岳災害記念館は、土石流の土砂を利用してできた埋立地に建てられた。

野菜の「花」を見たことがある人は、どれだけの野菜を栽培しているだろうか？

野菜からとれる「種」に多様な色と形があることをとだけの人を知っているだろうか？ 種子をじつと眺めても、ひとつとして同じものはなく、その一粒一粒から個性ある野菜が芽吹く。それは島原という土地と風土にあった野菜たちだ。

火山性の土壌は水はけがよく、ミネラルも豊富で野菜の栽培に適している。

雲仙市吾妻町に、収穫した野菜から種を取り続ける人がいる。岩崎政利さん五十九歳。農家出身の岩崎さんが就農したのは二十歳。しかし、三十一歳のときに原因不明の病気で倒れ、長年寝込むことになったという。それを機に有機農業による野菜づくりを開始。種子そのものにも目を向け、収穫した野菜から独自に種子を採取するようになった。

岩崎さんが種から作っている野菜は、市場ではめったに見ることができない昔ながらの「在来種」や「固定種」というものだ。在来種とは、日本各地で昔から作られ、その土地で生まれた野菜のこと。固定種は、別の土地からきた種子だが、その土地に根をおろし風土になじんで固定された野菜のことである。島原にも、この土地だけで生産されてきた野菜が昔はたくさんあったという。例えば長崎カブ、長崎ハクサイ、黒田五寸ニンジン、長崎高菜、長崎ワケギ、雲仙こぶ高菜、雲仙二月ハナヤサイ…。近年、消えよう

としている野菜たちだ。「雲仙こぶ高菜」は、昭和二十二年頃、中国から長崎に持ち込まれた野菜で、雲仙でさかんに栽培されていた。しかし次第に衰退し、その存在すら忘れ去られようとしていた。奇跡的に地元の農家で守られていた雲仙こぶ高菜の種と出会い、岩崎さんはその復活に力を注いだ。

「在来種や固定種の野菜は、その土地になじむことで野菜本来の力を発揮します。野菜がその土地になじみ、生産者がその野菜の本質を知るには最低でも五、六年はかかると思います」。岩崎さんの農法はとんでもなく時間がかかる。「その土地になじむ」ということは、そこに吹く風、温度、土に慣れるということだ。そして生きた土をつくることは「難しいこと」と岩崎さんはつぶやく。土を自然本来の土壌に再生させる…。その原点が雑木林。落ち葉の下にできるふかふかの土、雨はその生きた土を通して活性水となり、植物を強く逞しくする。「野菜は無肥料では育たないと言われていますが、雑木林のように落ち葉や草木など自然界にあるものを土に戻せば、無肥料の状態でも元気に育つことが分かってきました」。

生きた土に生命力ある種をまく。それは種が生きていくことであり、そこに昔ながらの野菜が芽吹けば、島原の土そのものが本来の土壌となって生きてくる。岩崎さんの挑戦は今もなお続く。



このコーナーでは、地域を愛する人で、伝統芸能や伝統技術を大切に守り伝えている人やまちおこしに取り組んでいる人などを紹介します。

自分で育てた種で野菜を作る

岩崎 政利さん

Iwasaki Masatoshi



いわさき まさとし
1950年、長崎県雲仙市生まれ。雲仙市吾妻町のふもとにて有機農業と種の自家採取を30年ほど実施。生産する野菜80種類のうち、60ほどの種を自家採取。現在「種の自然農園」を展開している。「スローフード長崎」の代表も務める。平成17年、岩崎さんが復活させた「雲仙こぶ高菜」は、絶滅危機の食材などを守り伝える「スローフード協会国際本部(イタリア)」の「味の箱船」計画に日本で初めて登録された。



島原の土に、

生命力あふれる

種子をまく。



恵みの歳時記

雲仙岳の伏流水、
島原の塩と小麦粉から
生まれた

島原手延 そうめん

ミステリアスなルーツを持ち、
時代の流れに翻弄されながら
製造技術を高めた島原のソウルフード。
雲仙岳の清らかな伏流水の中で
艶やかに輝く白い麺に
島原の歴史と自然の恵みを知る。





1 長さ19センチにカットし、長さ、太さをチェックする「選別作業」が人の目と手によって行われる。
 2 そうめんは、直径1.3ミリ以下。一束50gに約400本が収まる。3 乾燥室にスラリと並ぶそうめんの白糸。そこはひんやりと冷たく小麦の香りに包まれていた。4 現在は保健衛生の面から伏流水は使用できないが、昔は井戸から湧き出る上質な湧水を使ってそうめん作りが行われていた。

豊かな土地の恵みと技術の向上から生まれた白い絹糸。

島原半島の食の三大名物と言えは「具雑煮」「六兵衛」「島原そうめん」だろうか。いずれも歴史あるものばかりだが、島原手延そうめんは、約四百年前の島原の乱後に日本各地から移住してきた人々によって製造技術が伝えられたと言われている。しかし、麺を細く割っていく工程の違いや、麺の節を「オデ」と呼ぶ小豆島の方言との違いなどから、六百年ほど前に中国福建省から長崎にやってきた人々によって、その技法が島原一帯に伝わったのではないかと、という説もある。島原そうめんの発祥は実にミステリアスである。

南島原市西有家町に長年製麺所を構える「本多製麺有限公司」に製造工程を見せていただいた。そうめんを伸ばす「大引き」という工程では、うどんくらいの太さの生地があつと言う間に細くなっていく。白く美しいそうめんがまるで簾のように次から次へと「ハタ」という竿にかけられ乾燥室へと運ばれていく。「乾燥が一番難しいですね。夏と冬とは大違い。乾燥が遅れたら色にムラができ、急いで乾燥すれば切れてしまう。そうめん作りは自然との闘いです」と社長の本多祥彦さんは言う。そ

れでも南島原は昔から温暖な気候でそうめん作りに適した風土だったらしい。材料である小麦粉は水はけのよい深江の土壌で栽培されていた。さらに島原の乱の岩でもあった「原城」近くには塩田もあったという。水は井戸を掘ればきれいな伏流水が染み出し、温暖な気候は乾燥を助けた。早朝から生地を仕込み、その日の夕方にはそうめんが出来上がる。そんな環境の良さもそうめん作りが定着した大きな理由なのだろう。

須川そうめんから島原手延そうめんへ

現在の島原半島には、西有家町、有家町を中心に四百ものそうめん業者がいるという。そのうち三百五十が西有家町に集中しているというから驚きだ。「昔は西有家町の須川という地区でそうめんが作られていたので、最初は須川そうめんと呼ばれていました」と本多さん。昭和四十年代に入ると、そうめん発祥の地・奈良県の「三輪素麺」が、製品として扱える高度な技術を島原半島のそうめん業者に伝授。その数は一気に増えた。それまでは地元で食べる分だけを製造

するという細々としたやり方で、地元の米屋で新聞紙にくるまれて販売されていたのである。当然、麺の太さにはバラつきがあり、製品として広く販売できるものではなかった。その後、島原そうめんは、三輪素麺として売り出されることになって技術を磨いてきた。そして平成十二年、産地表示の規定により島原のそうめんは自立の道を歩むこ



7 午前中に小麦粉、塩水、少々の油をミキシングして生地を作り、よりをかけながらロールで伸ばしていく。この行程で生地に圧力もかけていくので強いコシが生まれる。8 熟成を繰り返しながら段階を辿って機械で細く伸ばされるので、弾力も持ち合わせている。茹でたあとも伸びにくく、歯ごたえがあるのが島原手延そうめんの特徴である。9 そうめんの製造技術を使って手延べ pasta「島原洋麺」を製造するなど新たな麺づくりにチャレンジし続けている本多祥彦社長

本多製麺有限公司 南島原市西有家町須川74 電話 0957-82-2451

EVENTS

6月～8月のイベント情報

海フェスタながさき ～海の祭典2010長崎・五島列島～

7月の第三月曜日「海の日」に、海の恩恵に感謝し、海に親しんでもらうことを目的とした海の祭典「海フェスタながさき」が長崎市、五島市、新上五島町で開催されます。7月17日から8月1日まで、海フェスタの式典に合わせて様々な楽しい関連イベントが実施されますのでぜひご参加ください。



シンボルマーク

詳しくはwebで [海フェスタながさき](#) [検索](#)

長崎帆船まつり



日本丸をはじめ、各地の帆船が長崎港に集います。帆を一齐に広げるセイルドリルは迫力満点。

- 【長崎会場】**
日程：7月22日(木)～26日(月) 会場：長崎港(水辺の森公園周辺)
内容：入港パレード、セイルドリル(操帆訓練)、船内一般公開、帆船体験クルーズなど
- 【五島会場】**
日程：7月29日(木)～8月2日(月) 会場：福江沿岸壁
内容：日本丸の体験乗船、セイルドリルなど
- 【新上五島会場】**
日程：7月29日(木)～8月2日(月) 会場：新上五島町相河崎埋立地
内容：海王丸の一般公開、花火大会など

長崎ペーロン選手権大会



350年余の歴史がある、長崎の夏の伝統行事です。

日程：7月31日(土)～8月1日(日) 会場：長崎港内(松が枝国際観光光頭埠頭周辺)
内容：約14mのペーロン船に26名の漕手が乗り込み、太鼓とドラの拍子にあわせて、熱戦を繰り広げます。

その他の県内のイベント情報は、リニューアルして旅の予約もできるようになった「ながさき旅ネット」をご覧ください。

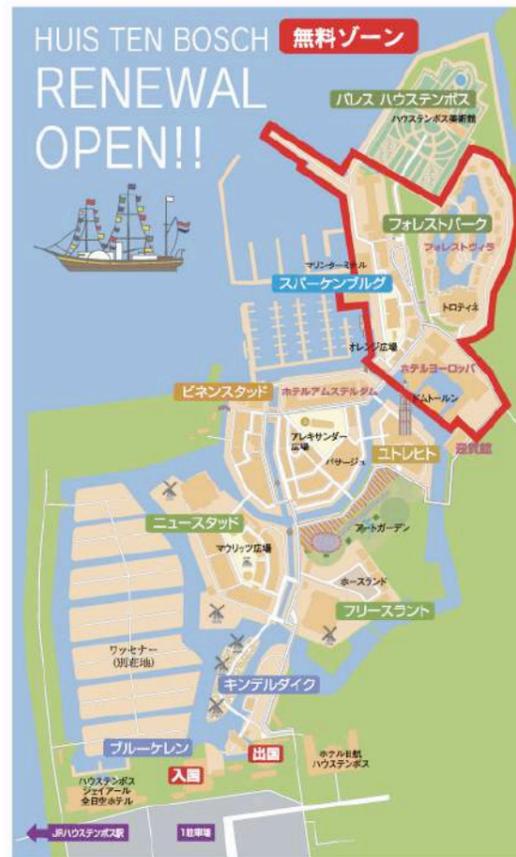
詳しくはwebで [ながさき旅ネット](#) [検索](#)

ハウステンボスが リニューアルオープン



4月にリニューアルオープンしたハウステンボス。入場料金の見直しや無料ゾーンの設置などにより、より身近な街に生まれ変わりました。ゴールデンウィーク中には昨年を2割以上も上回る入場者がありました。今後もパレードやステージショーのほか、西洋のおぼけ屋敷や釣堀、キャンプ場のオープンを予定しています。昼も夜も楽しめる新しい魅力を提供するハウステンボスの街をぜひお楽しみください。

詳しくはwebで [ハウステンボス](#) [検索](#)



NEWS & TOPICS

県内ニュース・トピックス

西九州自動車道の一部区間開通

県北へのアクセスがさらに充実!



平戸大橋

3月20日、西九州自動車道の佐世保みなとインターチェンジ(IC)と相浦中里ICとを結ぶ区間が開通しました。

今回開通したのは、佐世保市の市街地を縦断する7.9キロの区間です。市中心部の交通混雑が大きく緩和されるほか、県内や佐賀・福岡両県からのアクセスも向上しました。

来年3月には、さらに佐々IC(仮称)まで延伸される予定です。

また、平戸市に架かる「平戸大橋」と「生月大橋」の通行料が4月から無料となり、県北地域の交流人口拡大に向けて大いに期待されています。

ますます便利で快適になる県北地区へ、皆さん足を運んでみてはいかがでしょうか。



佐世保みなとインターチェンジ

長崎港「松が枝国際ターミナルビル」完成

新しい海の玄関口が登場!



松が枝国際ターミナルビル

長崎港は、市街地の中に大型クルーズ客船が入港できる、世界的に見ても数少ない港のひとつです。この港に、新しい海の玄関口として、「松が枝国際ターミナルビル」が3月26日に完成しました。

このビルは、クルーズ客船乗客の入国をスムーズにするための施設が充実しており、またクルーズ客船が寄港していないときは、一般向けのホールとして利用できるなど、新しい交流の場となっています。

長崎港には、今年も40隻以上のクルーズ客船が入港予定で、乗客の県内観光により各地でにぎわいが生まれ、経済の活性化にも期待が高まっています。

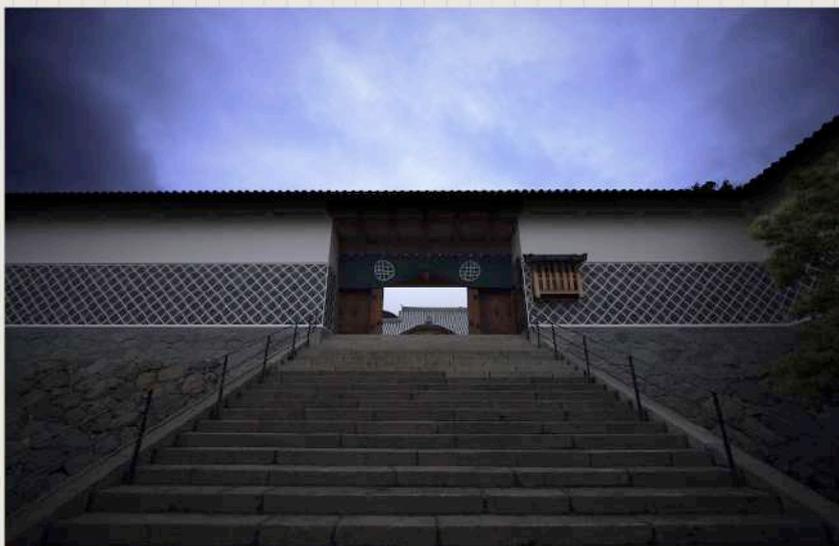


松が枝ふ頭に接岸するクイーン・メリー2

長崎奉行所 立山役所

龍馬とながさき

Vol.1



元治元年（一八六四年）、坂本龍馬は、幕府軍艦奉行並勝海舟に同行し、初めて長崎を訪れた。海舟一行は総勢四十七人。長崎派遣の目的は外国艦船の下関攻撃を回避することだった。四十日余りの長崎滞在中、一行は長崎奉行所立山役所や西役所、大浦の外国領事館などを訪れて各国領事と会見した。

また、慶応三年（一八六七年）、長崎丸山でイギリス軍艦の水夫が殺害された「イカルス号事件」では、海援隊に嫌疑がかけられ、隊長であった龍馬が長崎奉行所立山役所に出頭。取り調べを受けたが、海援隊による犯行は実証されず、長崎奉行から「お構いなし」の判決を受けたという。長崎奉行所立山役所跡には、平成十七年（二〇〇五年）十一月、長崎歴史文化博物館が開館。江戸時代の絵図面や発掘された遺構などをもとに、同じ場所に長崎奉行所立山役所の一部が復元されている。

長崎歴史文化博物館

「長崎奉行所・龍馬伝館」の展示を一部リニューアル!

オリジナル寸劇は、今回「イカルス号事件」にテーマを変更したほか、貿易商人トーマス・グラバーの邸宅をイメージした部屋を新たに設けました。このほか福山雅治さん演じる龍馬のブーツや真木よう子さん演じる龍馬の妻「お龍」の衣装なども展示しています。龍馬が激動の幕末の中で活躍した長崎での物語を体感してみてください。

開催期間 2011年1月10日(月)まで

開館時間 8:30~19:00(最終入館30分前)

料 金 大人500円(400円)小中学生250円(200円) ※ ()内の料金は、前売り・団体料金

寸 劇 土、日、祝の ①11:00~ ②12:00~ ③14:00~ ④15:00~ ⑤16:00~ ※各回約12分

長崎県美術館

企画展

山下清展

放浪の天才画家

期間/6月20日(日)まで

「日本のゴッホ」と呼ばれた放浪の画家・山下清。長崎の風景を描いた「長崎三部作」を特別公開するほか、色鮮やかな貼絵(はりえ)や油彩画、陶器といった多彩な作品、日記や写真など貴重な資料をご紹介します。



〈長崎風景〉貼絵/1964年 十八銀行蔵 ©清美社

〒850-0862長崎市出島町2番1号
TEL.095-833-2110 FAX.095-833-2115
WEBで

長崎歴史文化博物館

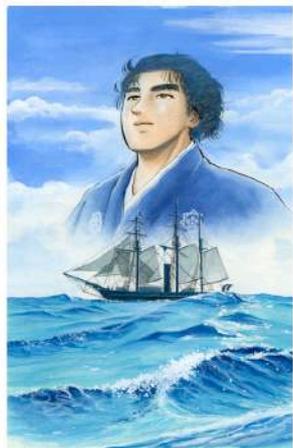
企画展

サンデー・マガジンのDNA

～週刊少年漫画誌の50年～

期間/7月17日(土)～9月6日(月)

少年漫画界をリードしてきた「週刊少年サンデー」と「週刊少年マガジン」。両誌の創刊50年を記念し、歴史的名作から現在の人気作品まで、同誌を代表する原画100点を一堂にご紹介します。



武田鉄矢・小山ゆう/小学館

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL.095-818-8366 FAX.095-818-8407
WEBで



島原半島 アクセス

飛行機で



鉄道で



車で



福岡県・熊本県から海路もあります。	【高速船】三池港(福岡県大牟田市)～島原外港(島原市)
	【フェリー】長洲港(熊本県長洲町)～多比良港(雲仙市) 熊本港(熊本県熊本市)～島原外港(島原市)
	鬼池港(熊本県天草市)～口之津港(南島原市)

島原半島内の交通のお問い合わせ ・鉄道/島原鉄道(0957-62-2232) ・路線バス/島鉄バス(0957-62-2234)



エル グレコ

長崎県美術館 開館5周年記念 プラド美術館所蔵 エル・グレコ《聖母戴冠》特別展示

日本初公開 好評開催中—10月24日|日|まで

会場|常設展示室 第4室 開館時間|10:00~20:00(最終入場19:30) 休館日|第2・4月曜(祝日の場合は翌日)
美術館コレクション展覧料|一般400円(320円)/大学生・70歳以上300円(240円)/小中高生200円(160円)
※長崎県内の小中学生は無料。*()は15名以上の団体料金。※障害者手帳保持者、及び介護者1名は5割減額。

主催|長崎県、長崎県美術館 後援|スペイン大使館 Embajada de España、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、
長崎県立長崎図書館、長崎市立図書館、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞長崎支局、
NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、
長崎ケーブルメディア・エアエム長崎、長崎県タクシー協会 助成|財団法人地域創造
Photographic Archive、Museo Nacional del Prado、Madrid

関連企画

記念講演会1「プラド美術館の魅力～栄光の歴史とコレクション」
日時/6月12日(土)14:00~15:30 会場/長崎県美術館 ホール
講師/川瀬佑介(長崎県美術館学芸員) 定員/先着100名、聴講無料(ただし、展覧会観覧券等が必要です)
ギターと絵画の交わるどころ～スペインの魅力～
日時/7月10日(土)15:30開場、16:00開演 会場/長崎県美術館 ホール
出演/クラシックギター:益田正洋、トーク:川瀬佑介 定員/100名、入場無料(ただし、展覧会観覧券と整理券が必要)



長崎県美術館

長崎県長崎市出島町2番1号 〒850-0862
Tel:095-833-2110 www.nagasaki-museum.jp

に
なごり
こり

「ながさきにこり」は
「ながさき夢百景」をリニューアルし、長崎県内の各
地域の魅力をよりわかりやすく紹介します。読んで
いて思わずにこりさせる情報誌を目指します。

平成22年5月発行
編集・発行/長崎県広報広聴課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13 Tel.095-895-2021
http://www.pref.nagasaki.jp
デザイン/(有) イーズワークス 印刷/(株) インテックス
※本冊子の内容は、長崎県のホームページでもご覧いただけます。

長崎県

この印刷物は古紙
配合率70%以上
の再生紙を使用し
ています。

270